

GOD WITH US

Part 2: Conquest and Chaos

Joshua - Judges - Ruth

Message 4 – Canaan Divided among the 12 Tribes

Joshua 13-23

October 11, 2015

神は我らと共に

パート2：征服と混乱

ヨシュア記 — 士師記 — ルツ記

第四メッセージ — カナンの地、12部族への配分

ヨシュア記13－23章

はじめに

カナンの31に及ぶ都市国家による抵抗の克服に成功し、ヨシュアは約束の土地をイスラエルの12部族に配分した。まだまだ抵抗する地区が残っていたので、多くの部族は徹底的に敵を克服するために更に神に信頼しながら前進していかなければならなかったが、おおむね、アブラハムの子孫のための「大いなる地」継承の約束が果たされ（創世記12：1－3）、この時、ようやくイスラエルは、土地の継承に落ち着き、世に神を明らかにする使命が与えられている祭司の王国として国家の真の目的を全うするための生活が始まった。（参照：出エジプト記19：5、6）



土地配分の指示： 13：1－14：5

さてヨシュアは年が進んで老いたが、主は彼に言われた、「あなたは年が進んで老いたが、取るべき地は、なお多く残っている。（13：1）

わたしが命じたように、あなたはその地をイスラエルに分け与えて、嗣業とさせなければならない。（13：6）

神は、ヨシュアに、これから征服するべく土地がどこであるか伝えられた（13：2－6）。神は、それらの土地の人々を追い出してくださることを約束してくださった（6節）。そして、未だ征服されていない土地も12部族に配分されなくてはならなかった。それぞれの部族は神が敵どもを倒してくださる、彼らに勝利を与えてくださることを信じたので、神は、それぞれの部族とともに、全ての土地を完全征服するために働いてくださった。

9½部族はヨルダン川の西のカナンの土地を受け取る。2½部族は既にモーセによってヨルダン川の東の土地の配分を受けていた（トランス ヨルダンの土地）。

イスラエル12部族は、なぜ12部族あるのに13人の名前が存在するのか？その答えは、ヨセフの部族（ヤコブの11番目の息子）が一部族として数えられていないからである。むしろ、ヨセフの二人の息子たちは、それぞれを「半部族」とし、マナセとエフライムを合わせて一部族として数えられている。（参照：創世記48：5のヤコブの祝福の中で記されているように、エジプトで生まれたヨセフの息子エフライムとマナセは、ヤコブの息子とされた。）

祭司部族であるレビ部族には土地の配分は与えられなかったが、その代わりに土地一帯に町、村、牧草地を与えられた。特別に神に仕える職務が与えられていることが彼らの相続であった。

ただし、レビの部族には、モーセはなんの嗣業をも与えなかった。イスラエルの神、主がその嗣業だからである。主がモーセに言われたとおりである。（13：33）

カレブの相続の要求： 14：6－15

カレブは12部族に属しなかった。45年前、モーセがカデシュ・バルネアから約束の土地の偵察に送った12人のスパイのうち、ヨシュアとカレブは重要な2人の人物であった（民数記14章）。巨人たちを敵にした際、神がイスラエルに勝利を与えてくださることを信じるのが出来たのは彼ら2人だけであった。残りの10人のスパイは、後ろ向きで落胆的な報告を持ち帰り、イスラエル国家を神の命令に逆らいエジプトに引き返すように訴えた。このカデシュ・バルネアにおけるイスラエルによる反乱のために、大人の世代が皆死んでしまうまで、荒野での40年間の放浪へと導いた運命の転機となった。そして45年後、カレブはヨシュアに相続の要求をした。

時に、ユダの人々がギルガルのヨシュアの所に来て、ケニズびとエフンネの子カレブが、ヨシュアに言った、「主がカデシ・バルネアで、あなたとわたしについて、神の人モーセに言われたことを、あなたはごぞんじです。主のしもべモーセが、この地を探るために、わたしをカデシ・バルネアからつかわした時、わたしは四十歳でした。そしてわたしは、自分の信ずるところを復命しました。しかし、共に上って行った兄弟たちは、民の心をくじいてしまいましたが、わたしは全くわが神、主に従いました。その日モーセは誓って、言いました、『おまえの足で踏んだ地は、かならず長くおまえと子孫との嗣業となるであろう。おまえが全くわが神、主に従ったからである』。主がこの言葉をモーセに語られた時からこのかた、イスラエルが荒野に歩んだ四十五年の間、主は言われたように、わたしを生きながらえさせてくださいました。わたしは今日すでに八十五歳ですが、今もなお、モーセがわたしをつかわした日のように、健やかです。わたしの今の力は、あの時の力に劣らず、どんな働きにも、戦いにも堪えることができます。それで主があの日語られたこの山地を、どうか今、わたしにください。あの日あなたも聞いたように、そこにはアナキびとがいて、その町々は大きく堅固です。しかし、主がわたしと共におられて、わたしはついには、主が言われたように、彼らを追い払うことができるでしょう」。そこでヨシュアはエフンネの子カレブを祝福し、ヘブロンを彼に与えて嗣業とさせた。こうしてヘブロンは、ケニズびとエフンネの子カレブの嗣業となって、今日に至っている。彼が全くイスラエルの神、主に従ったからである。ヘブロンの名は、もとはキリアテ・アルバといった。アルバは、アナキびとのうちの、最も大いなる人であった。こうしてこの地に戦争はやんだ。（14：6－15）

何という信仰の証でしょう！カレブは85歳であったが、たとえ巨人を敵に立ち向かわなくてはならなくても、神の助けを信頼し征服するための領土を要求したのです！それで主があの日語られたこの山地を、どうか今、わたしにください。あの日あなたも聞いたように、そこにはアナキびとがいて、その町々は大きく堅固です。しかし、主がわたしと共におられて、わたしはついには、主が言われたように、彼らを追い払うことができるでしょう」（14：12）。ここに登場する巨人たちは、10人のスパイたちを退かせる原因となった、カデシュ・バルネアの巨人たちの子孫であった。そして今、信仰によってヨシュアは友人の要求を認めカレブにヘブロンを与えた。

ユダの領土： 15：1－63

ユダにはカナン南部の大規模な土地が与えられた。全域に居住するには、余りにも広大な土地であったので、ユダの領域内の一部が、後にシメオン部族に分け与えられた。カレブの特別な相続もまたユダの領土内にあった（15：13－19）。再度、ここで（当時85歳であった）カレブがアナクの子孫（巨人の子孫）を追い払ったことが記されている。

カレブはその所から、アナクの子三人を追い払った。すなわち、セシャイ、アヒマン、およびタルマイであって、アナクから出たものである。（15：14）

次の句が3度繰り返される：「カレブは、神である主に全く従った。」（14：8，9，14）。カレブが完璧な人であったと意味しているのではない。神に心を常に向けていたということの意味する。他の者は恐怖に克服されてしまったとき、カレブは信仰をもって歩んだ。人生の中で圧倒されてしまうような状況にとらわれることなく、神のご性質とお約束から目をそらすことが無かった（「わたしはあなた方の前に彼らを追い払う。」）。カレブにとっての神の見解は、巨人の見解よりもはるかに大きかったので、巨人に出会っても尻込みしなかった。必要なときには群衆にも喜んで対抗した。ヨシュアを除き、カレブの同世代は皆、荒野で死に、埋葬された。一方、カレブは、85歳の年でありながらも、土地を征服するために巨人たちに立ち向かって戦っていた！人生の最期で次のような碑文が刻まれることは何と驚異的である：神である主に完全に従った。自問してみましょう：カレブのような「神への並びない魂」を備えているであろうか（参照：民数記

14：24）。カレブのように「神に完全に従っている」であろうか？完全に主に従うことへのコミットメントは、勇気、信仰、有用性、そして最終的には神の喜びと報酬の土台である。

父親としてのカレブについての特別注釈が記されている（15：15－19）。カレブは土地を付けて娘のアクサをオテニエルの妻に与えた。娘は結婚の特別な祝いとして泉を求めた（既に手に入れた土地の上に）。カレブは、娘の望む通りに「更に特別な」結婚祝いの贈り物を与えた。何と優しい戦士であろうか！我が娘と彼女の願いを大切にしたのである。

エフライム領土： 16：1－10

ヨセフの二人の息子たち、エフライムとマナセは、カナンの地の中央領域に位置する土地を受け取った。カレブが巨人を追い払った傍ら、エフライム部族はその領土からカナン人を追い出すことが出来なかったので、強制労働者として捕らえられた。

ただし、ゲゼルに住むカナン人を追い払わなかったので、カナン人は今日までエフライムの中に住み、奴隷となって追い使われている。（16：10）

マナセの領土： 17：1－13

マナセ部族の領土は、二つの部分から構成されていた：一つはヨルダン川の西側、そして、もう一つは東側であった。息子がいなかったゼロペハデの娘たちについての特別な記載があった。これらの5人の女性たちは、マナセの他の男性の子孫と同様に父親の割当の分け前を付与された。それはモーセによって交わされた以前の約束を維持していました（民数記27：1－7）。繰り返し、カナンの抵抗が原因で、マナセは彼らの領土であった土地の完全な所有権を取り損ねてしまったことが注釈されている。

しかし、マナセの子孫は、これらの町々を取るができなかったため、カナンびとは長くこの地に住み続けようとした。しかし、イスラエルの

人々が強くなるにしたがって、カナンびとを使役するようになり、ことごとく追い払うことはしなかった。(17:12, 13)

エフライムとマナセ、更なる領土を求める： 17:14-18

彼らの部族の人口増加のため、エフライムとマナセはヨシュアに更なる土地の追加を求めた。

ヨセフの子孫は答えた、「山地はわたしどもに十分ではありません。かつまた平地におけるカナンびとは、ベテシャンとその村々におけるものも、エズレルの谷におけるものも、みな鉄の戦車を持っています」。ヨシュアはまたヨセフの家、すなわちエフライムとマナセに言った、「あなたは数の多い民で、大きな力をもっています。それでただ一つのくじでは足りません。山地をもあなたのものとしなければなりません。それは林ではあるが、切り開いて、向こうの端まで、自分のものとしなければなりません。カナンびとは鉄の戦車があって、強くはあるが、あなたはそれを追い払うことができます」。(17:16-18)

エフライムとマナセは、カナン人の軍隊を征服するためにヨシュアが軍隊の援助を送ってくれることを望んでいたように伺える(16節)。しかし、ヨシュアは、真っ向からその責任を追加の土地の権限を求めている彼ら自身の肩の上に置いた(18節)。あなたがたが、カナン人を追い払うのです…

残りの7部族に配分された土地： 18:1-19:48

更に7部族への土地の割り当てが必要であった。ヨシュアは残りの土地を調査し、適切に7部族に分割する役割を男性たちに委託し送り出した。再びヨシュアは、土地の分割の提案を持ち帰るよう部族に責任を委任した。それから、ヨシュアは、各部族にその継承を与えるためにくじを引いた。

神が、直接あなたを通して、なさろうとしておられる事柄を指導者にしてもらおうと期待してはならない。ヨシュアは、素晴らしいリーダーシップの原則を引用した：一人ですべてやってしまうのではなく、他の人々の働きを強めなさい。ヨシュアは、責任を所有する願いを持つものたちに、その願望を満たすよう挑戦した。それらの部族らが領土の追加を求めたとき、ヨシュアは敵を追放することができることを保証した；しかし、神の力によって土地を征服するための信仰を用いるよう導いた。神は、私たち一人一人が、神と

ともに歩み、神の規模の勝利を与えてくださることに信頼してほしいと願っておられる。おそらく、ミニストリーにおいて、新しいビジョンや考えをお持ちになることがあるでしょう。そのアイデアが実現することを願いながら、指導者たちに提案したことがあるかもしれません。別のアプローチの方法は、あなたとそのチームが神から与えられた宣教ビジョンを現実のために祈りを重ねながら実行実現のために可能な戦略を開発することです。その上で、あなたの指導者に会い、ビジョンと戦略を提案し、努力を導くために奉仕しましょう。

ヨシュアの街： 19:49-51

こうして国の各地域を嗣業として分け与えることを終ったとき、イスラエルの人々は、自分たちのうちに、一つの嗣業を、ヌンの子ヨシュアに与えた。すなわち、主の命に従って、彼が求めた町を与えたが、それはエフライムの山地にあるテムナテ・セラであって、彼はその町を建てなおして、そこに住んだ。(19:49-50)

偉大なしもべであり、指導者に相応しく、ヨシュアが相続を受けたのは一番最後であった。最初と最上を主張しなかった。余りと最少を快く受け取ったのである。

避難所のための都市、指定される： 20:1-9

避難所の都市とは、不用意に誰かの死を引き起こしてしまった場合に加害者が逃げ込むことができ、安全が守られる街である。故人の親族は故人が流したの血の復讐のために、避難所の都市に逃げ込んだ者に触れることはできなかった。

新約聖書のヘブル人への手紙の中に、私たちに約束されているキリストにある安全について強調するために、「避難所の都市」の描写を用いている。私たちは、罪に対する神の裁きからキリストに避難するために逃げたのです(ヘブル人への手紙6:18)。私たちが「キリストに」繋がるなら、死から保護されるのです。イエス様が私たちの避難場所であるとは、なんと素晴らしいことでしょう！

レビ人の司祭たちに割り当てられた都市： 21:1-45

レビ部族には、特定の領土は与えられなかった；むしろ、イスラエルの地全体に渡って都市や放牧地が与えられた。それらの街々において 1) 幕屋でその周期的な義務を果たし、2) 自分たちの糧を稼いだり、家族のために家を提供したりすることができた。この部分は、神が約束に忠実にイスラエルの民に土地を与えられた経緯の概要をもって締めくくられる。

このように、主がイスラエルに与えると、その先祖たちに誓われた地を、ことごとく与えられたので、彼らはそれを獲て、そこに住んだ。主は彼らの先祖たちに誓われたように、四方に安息を賜ったので、すべての敵のうち、ひとりも彼らに手向かう者はなかった。主が敵をことごとく彼らの手に渡されたからである。主がイスラエルの家に約束されたすべての良いことは、一つとしてたがわず、みな実現した。(21:43-45)

神はみことばを守り、口にされた約束を果たすために忠実であられた！

ヨルダンの東の部族、配分の土地に送られる： 22:1-9

ヨシュアは、兄弟とともに闘うという約束を果たしたマナセ、ガト、ルベン部族に、以前に求めた東の土地にヨルダンを越えて戻る許可を下した。ヨシュアは、他の部族からの地理的分離を考え、ヤハウエとイスラエルとの間で結ばれた契約に忠実であり続けるための特別な申し継ぎを与えた。

ただ主のしもべモーセが、あなたがたに命じた戒めと、律法とを慎んで行い、あなたがたの神、主を愛し、そのすべての道に歩み、その命令を守って、主につき従い、心をつくし、精神をつくして、主に仕えなさい」。(22:5)

この申し継ぎには、シロでも忠実に幕屋の場所を尊重する内容も含まれていたに違いない。また、年に数回、国家の祭に参加するためにヨルダン川を越えなくてはならなかった。

ヨルダン川の畔りに、これらの部族は巨大な石の祭壇を建てる決心をした。ヨシュアがそれを耳にしたとき、直ちにマナセ、ガト、ルベン部族の偶像を想定した。実際、ヨシュアとその一族は、偶像崇拝のために、トランスヨルダンの部族たちと戦いに挑む決心をした！

「主の全会衆はこう言います、『あなたがたがイスラエルの神にむかってとがを犯し、今日、ひるがえって主に従うことをやめ、自分のために一つの祭壇を築いて、今日、主にそむこうとするのは何事か。(22:16)』

実際、祭壇建設プロジェクトの責任者である者たちと話したところ、彼らの同機は偶像崇拝ではなく、むしろ、まったくその逆であったことが解った：将来の世代のために、真の崇拝を維持することが真の目的であった。

しかし、我々は次のことを考えてしたのです。すなわち、後の日になって、あなたがたの子孫が我々の子孫にむかって言うことがあるかも知れません、『あなたがたは、イスラエルの神、主と、なんの関係があるのですか。ルベンの子孫とガドの子孫よ、主は、あなたがたと、我々との間に、ヨルダンを境とされました。あなたがたは主の民の特権がありません』。こう言って、あなたがたの子孫が、我々の子孫に主を拝むことをやめさせるかも知れないので、(22:24, 25)

この祭壇が象徴した真の意味は：ヨルダン川の東側に住む我々は、西側に住むあなた方とともにある。それは一つの国家の結束を象徴を記念する石碑であった。本当の動機が明確となり、疑惑も騒ぎも直ちに治まり、全ての部族は一丸となった。

人間関係において、未確認の想定は致命的である。想定を確認することを怠る時、いとも簡単に他人について完結してしまう傾向がある—動機、意図、思考—。著者、Pete Sczzerro (Emotionally Healthy Spirituality) は、想定の確認の手法を教えている。あなたが人間関係において想定していることに気が付いたとき、相手に直接問きましょう：「想定を確認してもいいですか？」許可を得たら、正直に謹んであなたの想定を述べましょう。「あなたは、～のようですが・・・」「私の想定は正しいでしょうか？」想定を事実であるかのように述べてはならない；むしろ、純粹に困惑している観察として伝えなければならない。それから、相手に、想定が正しいか、間違っているか、もしくは、修正をする自由を与えます。重要であるのは：疑惑から解放された健全な関係を保つためには、明確でダイレクトな敬意を踏まえたコミュニケーションが必要である。(罪の問題を扱う場合、よく似たケースについて、イエス様の教えが記されているマタイの福音書 18:15を参照。直接本人に会って、明確にしましょう！)